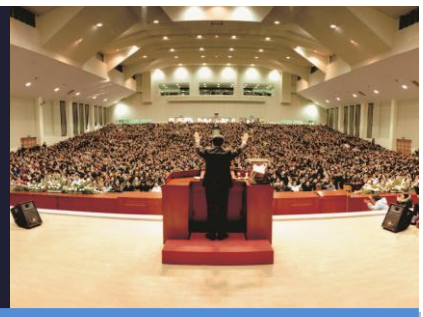
第 2018-32 号

恵みと真理のニュース



2018 年 8 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

悲しくて苦しかった私の人生を楽しくて幸せな人生になるように変化させてくださった神様に感謝を捧げます

私は長い間、神様の心を悲しませた放蕩息子です。私は平凡な家庭で1男4女の中で末子で生まれ結婚する前まではイエス様を信じて信仰生活をしました。しかし、偶像崇拝をする家庭の長男に出会って結婚してから婚家で生活しながら徐々に礼拝をするのをおろそかにして、結局は神様を離れて暮らしました。
息子と娘を育ちながら8年間、舅姑と一緒に暮らしましたが、分家してここアンサンで住んでから間もなくいろいろな苦難が来ました。分家してからしばらくは自分がやりたい事を思いどおりに やることができて心が自由になって楽でした。しかし、時間が経つにつれ心がむなしくなりました。仕事をしたらよくなるのかと仕事を探して韓国電気会社に就職して働き始めました。結婚した後は、家事に専念して再び社会生活を日々が楽しくてほかのうらやましいものがなかったです。私が思ったとおり分家して就職もしてこれからすべてが良くなると思いました。しかし、むしろ、その時から様々な苦難が来ました。 私の前道がいばらの道で荒野が開かれていました。
入社した後3年に経った時、舅が癌になって闘病生活を始めました。あちこちの病院をまわしながらたくさんのお金を使いましたが結局、亡くなりました。そして、 舅が生きている時、借りた借金まで私たちが返さなければならなかったです。借金を返す問題で夫の関係も悪くなりました。周辺で多くの人が私に破産申請をしたほうがよいと言われて、または離婚をしなさいとしました。あまりにもつらかったから一日も泣かなくて寝た日がないくらいでした。そんなある日、私は人生に何の希望と目標も持つことが出来ない絶望的な状況で会社を一日休んで家で横になっていました。そんな私に、恵と真理教会に通う職場の同僚が尋ねて来て今教会に行くところですが、時間あったら一緒に行こうと誘いました。今まで同僚が伝えてくれた福音に耳を傾けなかったですが、その日は迷わなく行くと同僚をついて行きました。その日が私にとっては人生の中で一番福なる日でした。悔い改めて神様の懐に戻って来たその日、神様に出会って魂が生まれ変わったその日、人生の真の意味と目的を知り新しい人生を始まった日になりました。
驚くことは礼拝堂で入る瞬間から自ら悔い改める祈りがでました 。そして、当会長の牧師の説教を聴いて心が感動され聖徒達をついて声高く祈って賛美しました。決心して、礼拝が終わって礼拝堂から出る時は神様の恵みと愛を感じて言葉で表現できない喜びと感謝の涙を流しました。その後、3年半を礼拝へ行くたびに涙と鼻水を流しながら悔い改めて感謝するのを繰り返しました。
神様を離れて長い間、さまよって父なる神様の心を痛ませた考えをするとまるで津波のように心の中に押し寄せ切ない悔い改めをしながらどれだけたくさん泣いたのか分からないくらいです。神様はそんな私に“私が、神様を離れたことで、神様は片時も忘れたことがなかった。と教えてくださいました。そして、わたしの心では感謝と感激で充満になりました。まじめに礼拝に参席して主を人格的に出会って真心を慰めてくださる神様の臨在の手を感じることが出来ました。そしてもっぱら神様に委ねて仰ぐようになりました。
旦那との関係、職場での人間関係やつらい業務と多い借金の問題でつらくて大変な中でひざをまづいて神様に祈りました。わたしの重荷にがあまりにも重くて荷なえられないと神様に祈りました。ある日、その日も涙を流しながら“神様！神様はわたしの心を知っておられますね。旦那さえもわたしの力にならないこの状況を祈りました。その瞬間、神様の御声を聞けました。“私が知っている。娘よ！あなたが今まで大変だったのをわたしが知っている。”と神様の御声でわたしの心が癒されました。完全に神様の前で平伏しました。主にわたしの重荷を預けてすべて物を降ろしました。主だけを信じて主だけを委ねて主と共に同行するようになりました。
その日から、わたしの家族と生活に大きい変化が現れました。さまざまな紆余曲折がありましたが、その中で大きい危機を越えて進み出るように導いて助けてくださって神様のお働きを経験しました。神様の慰めと励まされて旦那と心を一つにして再び立ち上がるようになりました。主の中で希望を発見して新しい目標を立て、全能なる神様を委ねて実行するようになりました。何よりも神様の恵みに感謝するのは享年に旦那と娘と息子がイエス様を受け入れ信仰生活をして洗礼を受けたのです。ついにわたしのすべての家族が神様を近づける幸せな人生を生きるようになりました。
真実にイエス様を主として信じ受け入れた後から私はイエス様を信じない人々に福音を伝えなくては耐えられなくなりました。私に出会った神様、わたしの罪を赦して子供としてくださり、永遠な命を与えてくださった神様の恵みと愛を人々に知らせなくては耐えられなかった。それで職場だけでなく出会う人々に熱心に福音を伝えました。初めは人々の迫害と侮辱と蔑視に傷つけられて落胆しましたが、今はあまり揺れなくむしろ、大胆に福音を伝えています。
経済的で生活が大変で神様に完全な十分の一献金と献身しないのが心にかけました。そんな状況でわたしの家族が経済的な問題で悩んで共に主日礼拝をささげるところ、当会長の牧師が苦難の中でも神様を畏れ御言葉に従順したサレブタのやもめの信仰と彼女に望んだ神様の恵みに関する御言葉で教訓してくださいました。その説教がわたしの心霊に打ったれました。大きい恵と感動を受けて相変わらず大変な状況でも完全な十分の一献金を捧げました。そしてその時ことに受けた恵みに感謝して献身する生活をしました。
すると言葉で表現できない神霊な喜びが溢れて神様がわたしの家族の人生を守ってくださる期待と確信が出来ました。生徒らしく神様に献身する生活をしたらうそのように 壺の粉は尽きることなく瓶の油はなくならない。“神様の恵みをわたしも経験するようになりました。そして、職場と村で伝道の実りも多く実られました。
今本当に幸せかぎりです。この以外にも受けた神様の恵みを数えられないほど多くて字で全部書けることが出来ません。じっくり考えても神様の恵みと助けがなかったら生きられないのを告白します。まだ、返す借金が多くて解決すべき問題がありますが、神様が共にしてくださり、私たちの家庭を守ってくださるので大きく心配しません。インヌエル神様がわたしが天国に行くその日まで共にしてくださり、私たちの家庭を強く守ってくださるのを信じます。
悔い改める機会を下さり、赦してくださって、救いの恵をと福を与えてくださる神様、苦難だったわたしの人生を楽しくて幸せな人生の道になるように変化してくださった神様、苦難が福になるようにしてくださった良い神様に感謝と賛美を捧げます。“ハレルヤ！主よ。愛します。”

［信仰コラム］

禁酒禁煙は聖徒の標識です

"愛する 者よ． あなたのたましいがいつも 恵まれていると 同じく， あなたがすべてのことに 恵まれ，またすこやかであるようにと， わたしは 祈っている．"（ヨハネの第三の手紙 2 節）

聖書で禁じていることの中で脂とお酒の弊害について調べてみましょう。そしてタバコまで加えてその被害と害に対して現代医学が明らかにした事実を援用して調べてみましょう。
第一に、神様が与えてくださった律法に獣の脂を飲んではならないとしました。
獣の脂を飲んではならない理由を現代医学が明らかにしています。血管に動物性の脂肪が入ると血管の壁について血管が狭くなり血が円滑に循環できなくなります。動物性脂肪によって心臓に分布された冠状動脈の壁が太くなり弾力性が喪失されると心臓筋肉に血液供給が良くできなくて心臓麻痺が起ります。また、疾病に対する抵抗力が弱化されて容易く病気にかかり、回復が難しくなります。それだけではなく血管が狭くなると心臓筋肉に血液をろくに供給できなくなり狭心症が生じます。心筋梗塞になると心臓筋肉で血液供給が全然できなくて心臓筋肉の一部が怪死されます。脂肪によって脳血管が狭くなり遮られて脳血流が減少することで脳の組織が技能をろくにできなくなります。狭心症、心筋梗塞、脳出血、脳硬塞は高齢者の死亡原因の中で高い比率を占めることであります。その原因は様々でありますが、その中で動物の脂を摂取することが含まれています。
レビ記 3 章 16 節に"祭司はこれを 祭壇の上で焼かなければならない。これは 火祭としてささげる 食物であって，香ばしいかおりである。脂肪はみな 主に 歸すべきものである"としました。健康に有益なのは彼の民に食べさせて、害なものは御自分のものだと言われ、人々が食べないようになさる神様の細やかさを感じさせます。
第二、健康に生活するためにはお酒を飲んではなりません。
飲酒の弊害は家族だけではなく社会的に莫大な苦痛と損失を及ぼします。お酒を飲むと判断力と注意力、自制力が弱化または、麻痺されて飲酒運転、暴力事故等の危険に処されます。血中アルコール濃度と交通事故率に関する実験結果を見ると、濃度 0.15%以上の泥酔状態では事故の発生率が 380 倍も高いです。大検察庁によると性暴力加害者の約 50%が犯罪の直前に過飲したことが明らかになりました。アルコールは頭脳の一定部分に萎縮をもたらすためお酒を飲む人々の多数が少しずつ自殺を犯しているのと違いありません。
全世界的に肝臓癌等、肝の疾患が多い国が韓国です。特に、20―50 代男の死亡原因の 1 位がお酒による肝の疾患であるそうです。それもそうなのは、韓国人のようにお酒をたくさん飲む民族がないと言うほどです。昔韓国に入った宣教師が昼間にもお酒を飲んで正体を知らない人々を見ました。それで教会では禁酒を制度化しました。箴言 23 章 29 節に禁酒に関する御言葉があります。神様は彼の民がお酒による健康損傷と弊害を受けないようにするためお酒飲むことを禁じられました。
第三、健康に生活するためにはタバコを吸ってはなりません。
平均的にタバコを吸う人は非喫煙者に比べて肺癌にかかる危険が 13 倍高く、1 日に 2 箱ずつ 20 年間タバコを吸う場合は、タバコを吸わない人より肺癌で死ぬ確率が 60-70 倍増加します。喫煙は第一に、肺癌、喉頭癌、食道癌、胃潰瘍と極めて密接な関係があり、第二に、肺炎、はやり風邪、十二指腸潰瘍、大動脈の拡張、膀胱癌と密接な関連があり、第三に、冠状動脈の疾患、肝硬変、他の癌に少なくない関連があって、第四に、脳の障害と脳出血にも多少関連があります。喫煙によって生じるありふれていて恐ろしいもう一つの疾病は肺気腫です。聖書が記録される当時にはまだ、タバコが使用されていませんでした。しかし、タバコを吸ってはならないという警告に該当する聖書の節が多くあります。（コリントの信徒への第一の手紙 6:19, 10:31）
聖書は医学書や科学の書籍ではありません。しかし、全知全能な神様が啓示られた御言葉です。従って、人々が私物の真相を五感で認識できない時代にも神様の御言葉に従うと数多くの疾病と急な死亡から免れて健康な生活を楽しめるように措置なさいました。禁酒禁煙は聖徒の標識です。標識とは他のことと区別して知らせる特徴を意味します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

癒しを信じて求めてください

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

教会が主イエス・キリストから受けた使命の中で御国の福音を伝えるのと病気を治癒されるように祈るのが非常に重要な任務に属します。
マタイによる福音書 9 章に記録されることを**「 イエス は， すべての 町と村を 巡り 歩いて， 諸会堂で 教え， 御國の 福音を 宣べ傳え， あらゆる 病氣， あらゆるわずらいをおいやしになった」（ マタイによる福音書 9:35）**しました。天国と無関係な福音は、福音ではありません。イエスご自身が言われたのを、**「そしてこの 御國の 福音は， すべての 民に 対してあかしをするために， 全世界に 宣べ 傳えられるであろう． そしてそれから 最後が 來るのである」（マタイによる福音書 24:14）**としました
イエスの行跡が記録された福音書には、病人を癒されたことが非常に多く記録されています。イエスは弟子たちに汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆる弱いのを癒し力を与えている。そして彼らに、**「天國が 近づいた 』と宣べ 傳えよ． 病人をいやし， 死人をよみがえらせ， らい 病人をきよめ， 惡靈を 追い出せ． ただで 受けたのだから， ただで 与えるがよい」（マタイによる福音書 10：7,8）**と命じられました。復活されたイエスが昇天の前、弟子たちに言われた最後のお申し付けて"... そして 彼らに 言われた， **「全世界に出て 行って， すべての 造られたものに 福音を 宣べ 傳えよ． 信じて バプテスマ を受ける 者は 救われる． しかし， 不信仰の者は 罪に 定められる． 信じる 者には， このようなしるしが 伴う． すなわち， 彼らはわたしの 名で 惡靈を 追い 出し， 新しい言葉を 語り， へびをつかむであろう． また， 毒を 飲んでも， 決して 害を 受けない． 病人に 手をおけば， いやされる」（マルコによる福音書 16：15-18）**しました
このように、病人を癒すことは、天国の福音を宣べ伝えることにいつも伴いしました。これは、イエスが弟子たちに直接重ねて命じられたものであり、弟子たちは、その命令どおりに実行しました。
ペンテコステ聖霊降臨から誕生した、エルサレムの教会は天国の福音を宣べ伝えて病人を癒すことをしました。ペテロとヨハネがエルサレムの神殿の美しの門の前で物乞いする身体障害者を、イエス・キリストの名で歩かせた事件のため、祭司長たちと民の長老たちによって逮捕され、 監獄に閉じ込められたが解放された後、同僚にその事実を知らせました
その言葉を聞いた仲間が集まって祈りを、**「主よ， いま， 彼らの 脅迫に 目をとめ， 僕たちに， 思い 切って 大膽に 御言葉を 語らせて 下さい． そしてみ 手を 伸ばしていやしをなし，聖なる 僕 イエス の 名によって， しるしと 奇跡とを 行わせて 下さい 」（使徒行傳 4：29,30）**しました。祈りを終えると、彼らは集まっていた場所が振動し、すべてが聖霊に満たされて、神の言葉を大胆に伝えました
教会は主が命じられた御国の福音伝播と病気の者を治療のために祈ることに続かなければなりません。初代教会の模範に従ってください。

ところが、次次に教会は御国ではなく、この世で栄光と繁栄を福音の核心に教える傾向へ堕落しています。そして、ヨーロッパの教会が急速に衰退しています。経済的繁栄がもたらされた教会の危機です。癒しについても否定的な教えが教会に浸透して、癒しの信仰と任務遂行を損傷になっています
私たちは、癒しの信仰に障害になっている間違った考えや信念を払拭する必要があります。癒しの無知、誤解、偏見はいろいろがあります。
「聖書の時代になったから、これ以上の啓示の言葉や奇跡が必要ではなくなった」「使徒の時代に按手を介してくださった奇跡的な力と現れた役事はすでに中断された」という主張があります。このような論理に基づいて、癒しの賜物と体験を弊害に扱う聖職者と神学者たちの教えが教会に影響を及ぼしています。そのほかに癒しの誤った主張とこだわりを持っている人がいます。「神は私たちを罪から救われる方で病気を癒す方ではなでしょう」と主張する人は、癒しの祈りに拒否反応を見せます
神の御旨によって人が病気になってまた癒しもなるので、病気の者は単に癒してもらうと祈るのではなく、神の御旨のままにしてもらう祈るべきだと主張する人々がいます。これらの人々は、イエスのゲッセマネの祈りを誤って適用しています。
「そして 少し 進んで 行き， うつぶしになり， 祈って 言われた， 「わが 父よ， もしできることでしたらどうか， この 杯をわたしから 過ぎ 去らせてください． しかし， わたしの 思いのままにではなく， みこころのままになさって 下さい」（マタイによる福音書 26:39）とイエスが求めています。イエスは、父の御旨を知らず、このように祈られたことではありません。イエスは父なる神の御心をしたがって万民の罪を贖いしようとこの世にきました。イエスの贖いの働きは、万民の罪を代わりに担当して罰を代わりに担当して十字架につけられ死ぬということです
したがって、イエスは何度も十字架で死を予告されました。イエスは父なる神のみ旨を明らかに知っていたが、罪のないイエスが人間のすべての醜い罪を担当して十字架につけられ死ぬことを考えるとき深く悩みました。そして、自分の意を父なる神に完全に屈服させるように祈りをささげています
私たちが病気の癒しのために祈るのは病気の癒すことが神のみ旨であるかないかを知らずにむやみに求めるのは決してありません。もし病気の癒すのために祈ることが、神の御心でなはない場合は、私たちが病気癒すのために祈るべきではないです。病気の癒すのために祈ることは、神のみ旨であり、主から命じたことを疑い余地がありません
病んでいる人は、病気の治癒よりも肉の病気を通して精神的な変化と進歩のきっかけをしなければならないという偏見を持つ人もいます。これらの人々は、肉体のとげによって祈った使徒パウロの体験を例に挙げて言います。
パウロが言及した肉体のとげが何なのかは断定するのが難しいが、もしそれが病気や物理的な障害や軟弱であっても、どこまでも、使徒パウロにあった特別な場合で見なければならないです。私たちは、特別な場合を一般化させるエラーを犯してはならないことです。

神がパウロに肉体のとげを与えられた理由は明らかです。あまりにも自慢ないようにしたことです。そして、すべてのことに、神の力に深く頼るようにしたことでした。パウロの場合は聖徒たちが病気癒すのために祈るのを止むのが決してありません。パウロはルステラで生まれからの身体障害者になった人を癒しの賜物で癒しました。それだけでなく、エペソでは、癒しの賜物が大きく示して癒しの時代は過ぎたと主張する人々がいます。これらは医術が発達していなかった時代には、癒しの恵みが現れたが医術と医薬が大きく発達した今日では、癒しの賜物が必要なくなったそうです。なるほど、医術と医薬の発展は驚異的だとすることができます。いろいろの種類の伝染病がほぼ撲滅されたり、天然痘のように完全に抑制されたこともあります。しかし、実際のところ、病気との戦いは終わりがありません。以前にはなかった新しい病気や致命的な伝染病が続け出現しています
また別の偏見と誤解は癒しのための祈りをしても治らない場合がありますので癒しのための祈る必要がないという主張です。これらがいう祈って治らない場合には、神の栄光を覆い隠し、信者の信仰に損傷を与えることということです。
次に、考えてみましょう。薬を飲んだり、医師の助けを受けても病気が治らない場合がまたあるとして薬屋と病院のドアを閉じると主張しますか？私たちは、神のなさることをすべて知りません。私たちは、苦難がどのような種類でも、その理由を十分に説明したり、理解できる人は誰もいません。ただ、神が聖書を通して明らかにした範囲内で、私たちは感謝して喜んで行うことだけです。病気は治癒を受けるために祈るようにし、「信仰の祈りは、病んでいる者を救うであろう。主は私を起こらせる 〃と言われたので、私たちが感謝して嬉しい気持ちで祈らなければなりません
祈りしても治らない場合について、聖書がすべて説明してくれないのもそのまま収容する必要があります。しかし、神の言葉をしたがって最善を尽くした人はすべての結末を神の導きによって、簡単に取ることができ後悔なくなります。私たちは、自分の経験と理解のわくの中にとどまって論争して主張することではありません。なんといっても、我々は聖書どおり信じて、聖書どおり伝え、聖書のどおり行います。すべての無知と誤解と偏見は、聖書の絶対権威を認めないために起こるものです

神は人が健康で生きるのを望んでおられ。神は自然界の様々な物質を人の健康を維持し、病気を治療するのに有効な成分が存在することになさいました。人々に知恵を与え、病気を予防し、治療するための知識と技術を開発するようにくださいました。そして、信仰と祈りに病気を予防し、治療することができる道もくださいました。
御国の福音を宣べ伝えて、病気が治癒されるように祈るイエスのお申し付けをなんの理由からでも拒否したり、歪曲させるのは、主の恵みとあわれみを軽蔑して軽い思う罪を犯すことです。聖徒たちは、イエスのお申し付けに完全に従うし、導き、主に任せなければなりません。